

調査日:令和5年10月11日~13日

調査地

10/11愛知県長久手市

10/12三重県いなべ市

10/13愛知県常滑市

調査目的 農業を通じての交流、住民を惹きつけるまちづくり、子育て支援等調査し市政発展に活かすため。

愛知県長久手市

長久手田園バレー交流施設めぐりん村

推定人口61,131人

長久手市の取り組み

長久手市が田園バレー構想の指針の一つである「ふれあい・交流・体験の場」として平成19年に開設され、都市近郊農業の活性化や、地産地消、都市農業交流の促進を目的に農産物直売所、パン工房などを備えた交流拠点施設として整備され農を通じて誰もが交流し、憩い、ふれあい、楽しめる場を提供している。

農ある暮らし農のあるまちを実現に向けて計画。

「農」の役割はただ単に食料を生産するだけでなく暮らしの様々な場面に大きく関わっている。

1環境生態形保全

2景観形成、癒し

3健康福祉

4交流コミュニケーション

5生涯学習教育

近年は「農」の持つ意味も市民が求める事も多様化している。

長久手市の農産物を使ったスイーツや料理、農産物も購入出来、市民が農に関する活動やイベントにも参加でき農や食について学び、相談し、仲間と繋がれる場所もある。

市民農園、農業体験もやりたい時に情報が集まり活用できる。

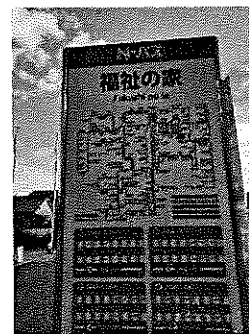
市の福祉の拠点施設でもあり、健康、福祉、交流をキーワードに建設された多目的施設で福祉エリアと温泉エリアとが両翼をなし二つのエリアを結ぶ交流ストリートは開放的で親しみやすい大空間として様々なふれあいが生まれている。

藤が丘駅からは1時間おきに無料シャトルバスが運行され、福祉の家Nバスは100円で利用できる。Nバスでは温泉へ訪れる高齢者が多く見られた。

広場もあり子供連れの家族も来られていてお年寄りから子供まで楽しめる施設となっていた。

農を通じて子供から高齢者まで楽しめる施設で地場産品も購入出来カフェも温泉も、ボランティアの募集などもあり、生きていく中で色んな方に関われ癒される施設だと感じた。

枕崎市も遊休農地が多いので人と繋がれる市民農園を取り入れると高齢者の生きがい作りや、お母さん達が安心して家族に食べさせる野菜作りが出来ると思った。



令和5年10月12日

調査先 三重県いなべ市

推定人口44,691人

調査事項 まちづくりの拠点施設「にぎわいの森」について
にぎわいの森は2019年春に新市庁舎の敷地内にオープン。

県外の有名な飲食店等5店舗

パン、ビストロ、パティスリー、フードブティック、カフェ
が入っている。

グリーンを活用した新たないなべ市の創造

グリーンとローカルセンスを融合し都会の人々を

魅了するモノ・コト・トキを創造する。

にぎわいの森をグリーンクリエイティブいなべ推進事業の核としてにぎわいの創出や交流人口の拡大を図っています。

プロジェクト1 キャンペーン事業

一方的な情報発信ではなく農・食・アート・アウトドア

といった明確なテーマを設け、生産者や芸術家等と連携しコミュニケーション
を意識したPR活動を行っている。

地方創生交付金を利用している。

プロジェクト2 ローカルセンスショップ事業

新庁舎の敷地内に整備したにぎわいの森はまちづくりの拠点。

事業については公募を行い、分野、業態、パイオニア性、顧客からの支持、経営者としての資質に加えまちづくりへの参画を前提に事業展開する事条件にした。

地域の人を巻き込み輪を広げ新たな価値を生み出し続ける仕組みづくりを行なっている。

プロジェクト3 生業事業

キャンペーン事業による関係づくりと、にぎわいの森を核とした新しいまちづくり構想に共鳴し、
若者が集まっている。

地域生業との繋がりの上に成り立つ生業を求める若者。その移住、定住を推進することが今後の
まちづくりには不可欠。

いなべ市では起業・創業を求める若者に対し、空き家物件等の情報提供や物件改修サポートを行
い生業の創出への後押しをしている。

行政経営

1 グリーンクリエイティブいなべ事業

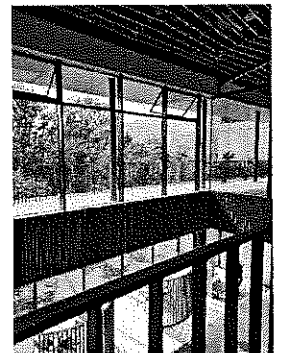
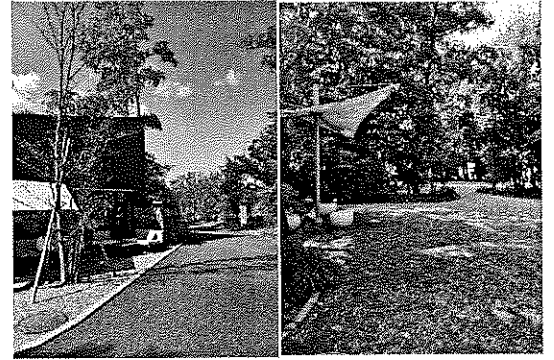
2 ふるさと納税制度による休眠楽器寄付受入事業

3 外部人材活用事業

4 いなべブランド事業

5 広域連携事業

枕崎市も若者が求める物を取り入れ、枕崎市に住むためのサポートをしながら、枕崎市に興味を
持ってもらう定住者を増やすのでは無いかと思った。



調査日 10月12日

調査先 いなべ市 青川峡キャンピングパーク

西日本1位との評価されている人気のキャンプ場。

都市と農山村との交流を促進し、魅力あるふるさとを創出するとともに、農村業の育成をはじめとする産業の振興に繋げ地域の活性化を図ることを目的としている。

事業内容

1自然景観の維持と環境保全

2都市と農山村との交流を促進

3都市と農山村との交流の場の創設する為の研修会の開催

4農山林地域の活性化に資する為の講演会、研修会の開催

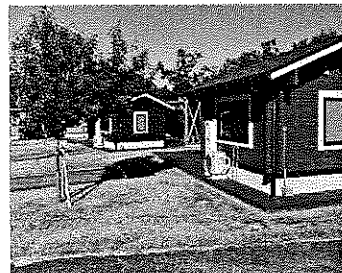
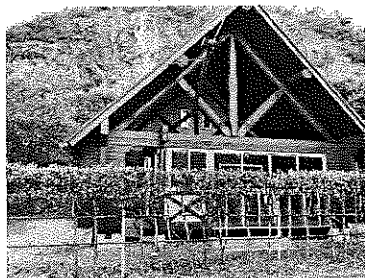
5農林産物等の特産物としての商品開発及び販売に関する事業

6森林空間活用施設など地方公共団体が設置する施設の管理の受託

7その他この法人の目的を達成する為に必要な事業

バーベキューやコテージ、プライベートサイト、トレーラーキャビンなど、初心者から上級者まで誰でも楽しめる様施設が充実していた。

キャンプ道具のレンタルや食材セットの販売もあるのでビギナーでもベテランでも手ぶらで行ける。レンタルサイクルも備えている、視察日も家族連れで賑わっていた。



調査日10月12日

調査先 三重県いなべ市 ノルディスク ヒュゲ サークル

三重県宇賀溪キャンプ場がデンマークのアウトドアブランド「ノルディスク」プロディースのグランピング施設として生まれ変わった。

自然を活かし、アウトドアに着目。

誰に売るのが？

アウトドア好きな女性

バイク乗り等ターゲットにし、市民自ら営業マンとなりいなべ市をPR

地方創生事業も活用しているが、総務省に問合せ他にどのような事業があるのか、尋ねたところ丁寧に説明があったとの事。

いなべ市はキャンプブームが過ぎてもある一定のキャンパーは残ると考えていると。

ヒュゲとは豊かな時間の過ごし方や暮らし方、心の持ち方をあらわす言葉である。

豊かな時間を求める県内外からいなべ市に興味を持ってもらうように民間の意見を取り入れお洒落な冊子を作り行政とは違う視点も取り入れていると話していた。

SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業に選定

フェアトレードタウンに認定！

地域と連携してインバウンドを！

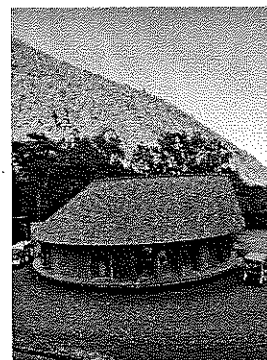
いなべ市を舞台に輝く主人公を増やそうとしていると強く感じた。

本市も火の神公園に絶景のキャンプ場があります。

キャンパーに集まってもらえるような市民も一緒に営業マンになってもらい本市のキャンプ場をPRしてもらえるのでは無いだろうかと思った。

そして本市もいなべ市のように民間の協力やアドバイスを貰い関

係人口を増やしていくと市民の皆様に興味を持って貰い、そこから他市、他県の方々に注目して貰えるのでは無いか？本市を舞台に輝く主人公を増やしていけると感じた。

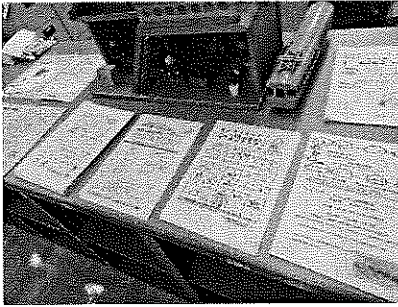
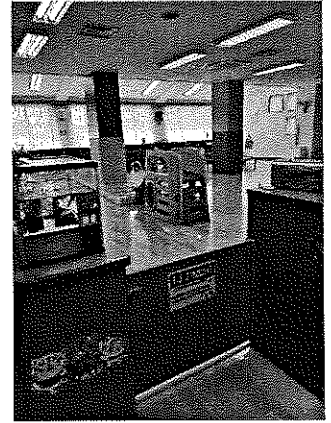


調査日 令和5年10月13日

調査地 愛知県常滑市 ←人口は？

調査事項 子育て支援について

- 1 子育て総合支援センターで実施している支援事業について
- 2 発達に特性がある子ども家族向けのペアトレーニング講座について
- 3 ファミリーサポートセンターについて
- 4 シルバー子育て支援事業「おさらい教室」について



支援センターではお母さんが手に取りやすいように子育て支援に必要なチラシが配置されていた。
とても見やすかった。

子育て支援センターでは子どもとの接し方のコツを知る、大人が学ぶペアトレーニング講座等も開催している。

子供の発達に関する相談が来た時には「子どもの発達支援ガイドブック」を手渡している。

内容は、発達相談、子育て相談、親子育児教室、と相談先がそれぞれ紹介されている。

子どもの特性に合わせて支援センターの紹介もしている。

支援センターでは独自の取り組みをしていた。

妊婦にはもうすぐ出産プレゼントがありAmazonギフト券1万円分のプレゼントがある。

子育て中のお母さん向けにワークショップもあり子育ての不安、イライラ等書き出してもらい、お母さん方との交流も出来てお母さん方は育児に困っているのは自分だけじゃないと勇気を貰え楽しい時間を過ごせ子供への対応にも自信が付いた等の声があった。

言葉・発達等に心配がある方、しつけなどに不安をお持ちの方が目標を持って参加するコアラの会もあり、スタッフや他の親子との関わりを通してお子さんの発達を知り、育ちあう場もある。シルバー支援事業「おさらい教室」では教員経験のある会員を中心に多様なシルバー人材センター会員が一人一人の学習状況をみながら教える少人数性の教室。

本来力がありながら伸び悩んでいる子、もう少しで勉強に自信や意欲が持てる子を対象にしている。母親の不安を解消させながら、親子のコミュニケーション力も学べ、子どもの特性に合わせて支援センターも選択出来るようにしていた。

常滑市の子育て支援を視察し手厚い子育て支援は重要であると強く感じた。

子育て支援センターではお母さんが来やすい孤独を感じない様に取り組んでいた。

参加されるお母さんはスタッフと喋りたい、家にいるよりセンターに来たいと言う。

この様な取り組みが大切であると感じた。

本市でも子育てする家族の方々に講座をしたりと不安を感じない子育て支援を常滑市のように取り入れていけると子育てするのに安心出来いい環境作りをしていけると思った。